

母乳育児の経済的な効果

先行研究について

英国およびドイツの早産児10万例を対象とした世界初のメタアナリシスが
行われ、母乳が早産児の命を救い、脳と免疫系の発達を改善するという強
力なエビデンスが提供されました。また、毎年、社会が負担する数千万から
数億ユーロもの医療費や教育費が節約されることにもなります。今、入院
中のすべての早産児に母乳を与えることが求められています。

英国では、毎年誕生する51,000人以上の早産児に母乳を与える
ことで6,200万ユーロもの費用が節約され、ドイツでは、毎年誕生
する5,800人以上の早産児に授乳することにより、8,900万ユーロ
もの費用が節約されることになります。これはほんの一例にすぎませ
ん。今回、ヨーク健康経済コンソーシアムの経済学者による新たな
研究では、**入院中の早産児への母乳育児が生涯にわたり、早産
児や社会に恩恵をもたらすことが示されました。**

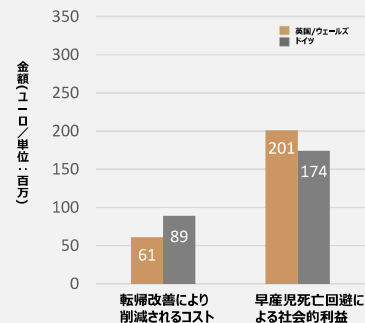
母乳育児により、乳幼児突然死候群（SIDS）、壊死性腸炎
（NEC、腸組織の部分的死滅）、および敗血症のような**生後1
年までに発症しやすい致命的な合併症を防ぐことができます。**ま
た、英国とドイツだけで毎年475人の死亡を防ぐことができると推定
されています。

赤ちゃんが成長し成熟する早い段階で母乳を与えることで、冠状
動脈性疾患、肥満、および神経発達障害の可能性が低下しま
す。母乳は赤ちゃんの命を救うだけでなく、生活の質も向上させま
す。

以上の理由から、赤ちゃんの生涯にわたる社会への影響は、直接
的な医療費を低く抑え、逆に生産性を高めるという点でも、極めて
大きいものです。早産児に母乳を与えることで、英国では年間2億
100万ユーロ、ドイツでは年間1億7400万ユーロのGDP増加が期
待されます。

経済学者でヨーク研究の筆頭著者であるJames Mahon氏は次
のように述べています。「結果は明らかです。国民保健サービス
（National Health Services : NHS）の支出を毎年3,400
万ユーロ削減する副作用のない医薬品があるとすれば、政府はまさ
に、その医薬品を日常の臨床実践に確実に導入するよう医療サー
ビスに圧力をかけるでしょう。」 今こそ、早産児への母乳育児を
病院の世界標準にすべき時です。

早産児への母乳の授乳による
年間の経済的効果の可能性



母乳育児の経済的な効果

「乳児栄養と乳幼児期の健康の関連に
関する前方視的検討」

研究募集案内

母乳育児の経済的な効果

研究募集案内

これから出産される妊産婦さんへ

母乳は赤ちゃんの生存、成長、そして発達に必要とするものすべてを含有しています。具体的には、三大栄養素、ビタミンや微量元素、そして発達に関連するさまざまな成分が母乳には含まれています。さらに、母乳は赤ちゃんの腸内細菌叢（腸内フローラ）の一部となる細菌や遺伝にかかわる物質も含まれています。

乳業会社も母乳の成分を研究し、粉ミルクに添加することで母乳に近づけようと努力しています。そうはいつても、粉ミルクが母乳と全く同じになることはありません。それは母親の母乳はその時々赤ちゃんが必要とするものを含んでいるからです。もちろん、日本では粉ミルクでも赤ちゃんは元気に育っていますので、なにがなんでも母乳がいいというわけではありません。

乳児期の栄養方法（母乳か粉ミルクか？）が家庭の支出に与える影響についてもいろいろなことがわかっていきます。人工栄養は、人工乳だけでなく哺乳ビンや人工乳首も購入しなければならいのでお金がかかる、母乳の方が赤ちゃんは病気になりにくい、などです。そうはいつても、日本では粉ミルクにくらべて母乳がどの程度赤ちゃんの病気を減らすのか、家庭の支出はどう異なるのか、このようなことをしらべた前向き研究はありません。少子高齢化・医療費の増加は大きな課題となっており、乳児栄養が乳幼児期の健康ならびに支出にどのような影響をもたらすのか明らかにしたいと考え、この研究を計画しました。

みなさまのご協力、宜しくお願ひ致します。

水野克己

昭和江東豊洲病院 小児内科

研究の概要

目的：乳児栄養と乳幼児期の健康との関連性に関する前方視的検討

方法：栄養方法に関する質問、小児科受診回数と理由（熱や咳、下痢など）、お薬の内容、また粉ミルクや哺乳ビン、人工乳首ならびに搾乳器や母乳保存容器など栄養に関連した支払い金額、赤ちゃんの成長（体重・身長）をサイト上の簡単なアンケート（サーベイモンキー）に記入していただきます。1か月に1回のペースでアンケートにお答えいただけます。回数が進むとアンケート調査にかかる時間は短くなります。長い回でも1回15分程度で終了します。

研究への参加期間：約1年間です。この研究への参加に同意いただけますと、期間中、1か月に1回こちらからお送りするアンケート調査にお答えいただけます。このアンケート調査は、1歳のお誕生日を迎えたところで終了となります。

対象者：これから出産される妊産婦さん、出産後の赤ちゃんへの栄養方法を問わない

募集内容の詳細および研究概要については、下記のサイトにてご確認ください。

<https://www.kotoclo.com/>



調査期間中の一連の流れ



ステップ① 研究への 参加登録

妊婦外来されている産科クリニック・病院でご案内を受けたあと、KOTOCLOのホームページにて“研究参加”のページから「研究参加同意書」の他、「個人情報取り扱いについて」などの情報をご確認された上、ご登録いただけます。

KOTOCLOとは

水野先生のもとに

子育て & 母乳育児を支援する会のことです

登録用サイト：

<https://www.kotoclo.com/>



妊娠中

ステップ② 1回目の アンケート

研究への参加にご同意いただいた方を対象にメールにて招待状を送付致します。招待状に含まれたリンクを用い、調査サイトにアクセスいただき、母乳育児のプランや家族状況についてなどの情報をアンケートにご記入いただけます。

ステップ③ 2回目の アンケート

ご出産された直後、2回目のアンケートのリンクをメールにて送付致します。出産時の情報、選んでいただいた栄養方法などの情報をアンケートにご記入いただけます。

ステップ④ 3回目以降 アンケート

ご出産されてから約1か月ころに、3回目のアンケートのリンクをメールにて送付致します。栄養方法に関する質問、小児科受診回数と理由（熱や咳、下痢など）、お薬の内容、それから粉ミルクや哺乳ビン、人工乳首ならびに搾乳器や母乳保存容器など栄養に関連した支払い金額、赤ちゃんの成長（体重・身長）などをアンケートにご記入いただけます。この時点から期間中、1か月に1回こちらからお送りするアンケート調査にお答えいただけます。お子様が1歳のお誕生日を迎えたところでアンケートは終了となります。

出産後